city & life

都市のしくみとくらし

no.106
winter
2012

特集 子どもの空間とまちづくり

city&life no.106 winter 2012

表紙・裏表紙――東京おもちゃ美術館「赤ちゃん木育ひろば」(関連記事:p8)
photo:秋山由樹

特集　子どもの空間とまちづくり

contents

対談 | 子どもたちの居場所 | 木下 勇×松田恵示　2

ルポ❶ | 子どもの創造力を刺激する「市民立」のミュージアム
東京おもちゃ美術館　8

ルポ❷ | 地域が育む「プレーパーク」子どもの遊び場とまちづくり　13

ルポ❸ | 夏休みに出現するまち「だがねランド」　19
トータルな「まちづくり」にふれるワークショップ

ルポ❹ | 子どもと地域、高齢者の役割「イクジイ」は、社会を変えるのか　24

連載 | 震災Report③ | 賑わいのあるまちづくりをめざして立ち上がる仮設商店街岩手県釜石市「かまいしキッチンカープロジェクト」と大船渡市「大船渡屋台村」　29
topic | 「福島県文化センター」再オープン　33

連載 | 都市を拓いた人々㊾ | 長岡 | 三島億二郎 北越戦争からの復興と近代化に尽力　34
長岡、わが郷土の傑人・三島億二郎 | 山岸 健　37

連載 | relay essay 私の好きなまち・くらし⑤ | わが幻想の前橋 | 鈴木博之　39

back number・information　40

子どもの空間とまちづくり

特集

1982年、当時の子ども、その親、祖父母世代それぞれに、子ども時代の遊び場について聞き取り調査した結果を「三世代遊び場マップ」としてまとめた千葉大学教授・木下勇氏。木下氏はさらに2007年、これに平成の子どもの聞き取り調査を加えた「四世代遊び場マップ」をつくったが、その時、80年代の子どもにとっては、格好の遊び場だった道路や路地から子どもの姿は消えていた。町の中に、子どもが自由に遊べる場所はすっかりなくなっていたという。では子どもたちは、毎日をどこで、どのように過ごしているのだろうか。そして、彼らが日常を過ごす地域社会は、子どもたちに対し、どのような役割を果たすことができるのだろうか。子どもたちの空間から、子どもも大人もお年寄りも、多世代にとって心地よい、まちづくりについて考える。 photo:**斎藤夕子**「ほっとスペース じいちゃんち」(関連記事:p24)